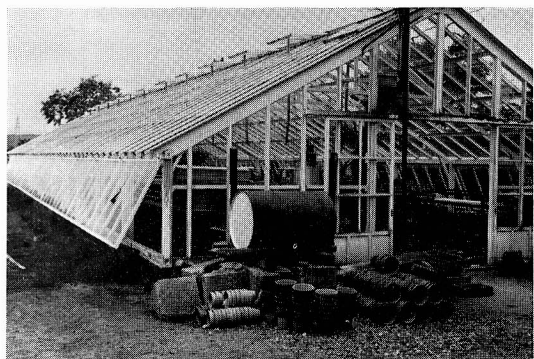


家製品だけでは足りないから、若松市から肥くみ或は、肥あげといって、昔は、農家が年に米をいくらといて、御礼をしながら肥のくみあげをしていたものである。これは現在全く逆に、町家では、くみ取りの費用を農家へ支払う始末になったが、その一因は化学肥料の発達と、人糞による蔬菜栽培を、衛生的にもきらうなどのことがわれる。

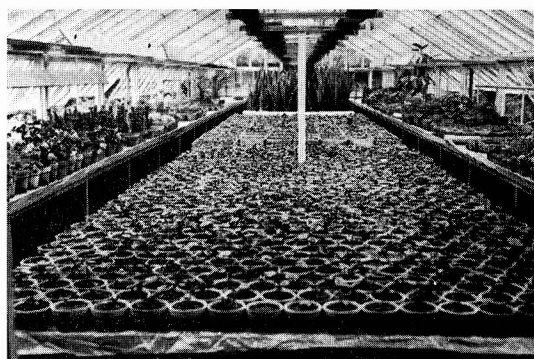
3、その他の産菜 山地を全くもたない、中州開拓の純農村で、全く農一色の村といってもよい。大川・鶴沼川で、いくらか漁業を営んでいた人々もあるが、殆ど兼業で、特に下流に水力発電のダムが建設されてからは内



春先の野菜の苗床づくり（宮袋）



真渡の温室栽培



真渡の温室内部の花卉栽培